

寿都町の絵馬

田中祐未

Key Words 絵馬 (Votive picture)、神社 (Shrine)、寿都町 (Suttsu Town)、船絵馬 (Funaema)

1 はじめに

神社や寺院に奉納された絵馬には、神仏に対する願いや感謝の気持ちが込められている。「絵馬」という名前の通り、馬を描いたものもあれば、馬以外の動物を描いたもの、歴史上の人物を描いたものなど、その画題は多岐にわたる。また、絵馬には、奉納者の名前や住所、奉納年月日、作者の落款や署名などが記されていることが多い。

絵馬から得られる情報は、さまざまな学問分野にとって貴重な史料となる。たとえば、ある地域内の社寺に奉納された複数の絵馬から画題の傾向を分析することによって、奉納された地域の信仰や生活文化について知ることができる。また、美術史的な観点から、様式などについて追究することもできる。絵馬は、その史料価値の高さから、保存と活用を推進すべき文化財といえる。

本州以南の研究成果を眺めると、すでに県単位で絵馬目録を作成し、地域的な特徴を見出した事例も少なくない。北海道に関していえば、全域を網羅した目録が発表されたことはまだないが、各市町村史などで各地域に現存する絵馬が取り上げられてきた蓄積はある。北海道博物館においては、その前身である北海道開拓記念館で美術史を担当していた学芸員の林昇太郎氏（故人）が、北海道に現存する絵馬の集成をめざし、特に日本海沿岸部を中心に現地調査を実施してきた。その成果には、当該地域の神社19件、計180点の絵馬についてまとめた調査報告「積丹半島に現存する絵馬について」（1993）などがあり、調査時の写真フィルムは現在も北海道博物館に保管されている。

筆者は、林氏の実績をふまえつつ、北海道内に現存する絵馬の調査・研究を進めたいと考えている。ただし、先に挙げた報告（林 1993）ですでに絵馬調査が行われた地域についても、調査から30年ほどの時が経過しているため、現地調査を改めて行い、現状を把握する必要がある。本稿は、（林 1993）においてすでに報告が行われた寿都町内を、筆者が改めて調査した結果を報告するものである。

2 調査の概要

筆者は、2019（令和元）年10月に、寿都町内（以下、「町内」と記す）の神社8社と、寿都町総合文化センターの計9件において現地調査を実施した。神社の調査にあたっては、壽都神社宮司・山口智久氏や、寿都町教育委員会学芸員・九谷葉澄氏、町内の神社を管理する役員の方々（以下、「寿都町内の各氏」と記す）のご協力によって、あらかじめ町内の各神社における絵馬の有無を把握することができた。町内には、神社が他にもあるが、絵馬が現存する神社に絞りこんだ結果として、上述した9件を調査することになった。時間等の都合上、今回は寺院を調査対象としなかったため、町内の悉皆調査には至らなかった。

調査をはじめたところ、写真や、風景を画題とした額など、絵馬にふくめるべきか否か迷うものが複数あった。林氏もこのことに触れ、どこまでの範囲を絵馬調査の対象とするか、いまだ定まった説がないことなどを示したうえで、「一応、拝殿などに奉納されている額類はすべて記録することとした。」（林 1993：98）としている。筆者も、同一のルールで本稿を作成することにした。本稿の目的は、町内の絵馬について新しい説を立てたり、何かを明らかにしたりすることではなく、その前段階として、まず町内に現存する絵馬を網羅的に把握することにある。それができれば、今後、さまざまな学問分野において、考察を深められる可能性がある。こうした進展を期待するならば、現段階では、調査範囲を厳しく絞り込むよりも、広く設定するほうが適切だと判断し、結果として、林氏と同一のルールを採用するに至った。

ただし、筆者が林氏と同一のルールのもと記録を行ったからといって、厳密に両者の調査結果を比較することはできないということを、あらかじめお断りしておきたい。たとえば、林氏の報告に「画題：風景」と記載された額について、対応する図版が掲載されておらず、なおかつ奉納者名などの文字情報もない場合、今回の調査において、筆者が風景を画題とする額を確認したとしても、

両者が同一のものなのかは不明である。こうした事情から、本稿では、林氏の報告と今回の調査における絵馬の記録を1点1点照らし合わせて比較することはせず、あくまで2019（令和元）年10月に調査した結果を報告することに努めた。

(1) 調査方法

熟覧、写真撮影、計測などの方法を用いた。調査にあたっては、寿都町内の各氏に同行していただき、状況に応じて聞き取り調査も実施した。

(2) 調査結果の概要

表1に所在地別絵馬数を、表2に所在地別絵馬一覧をそれぞれ示す。

①絵馬の総数

今回確認した絵馬の総数は計140点である。林氏がすでに指摘しているとおり（林 1993：98）、字磯谷町能津登の海神社に現存する絵馬の数はそのほかの神社に対して突出して多く、今回の調査では80点が確認された⁽¹⁾。

②画題

もっとも多かった画題は船で、20点程度を確認できた。そのほかに複数確認された画題としては、風景、神仏、動物、馬、武者、物語などが挙げられる。ただし、これらの画題を明確に分類することは難しく、どれに振り分けるべきか迷う絵馬が多数あった⁽²⁾。本稿では、本州以南の絵馬目録を参考にしながら、それぞれの分類に振り分けた。画題の詳細については、表2「所在地別絵馬一覧」に各絵馬の情報を示した。今回は画題を記録するだけにとどまり、分析には至らなかったため、今後の研究課題としたい。

③奉納年代

奉納年代が特定できる絵馬の総数は75点だった。最も古いものは、字磯谷町鮫取潤の稲荷神社にある1872（明治5）年の武者絵（寿-4-2、写真：p.186）であり、近世の絵馬は確認できなかった。元号別に分けると、明治期が41点、大正期が5点、昭和期が26点、平成期が3点確認できた。

また、神社によって、絵馬の奉納年代に偏りがみられた。字樽岸町建岩の稲荷神社にある6点の絵馬のうち、奉納年代が特定できる絵馬4点はすべて昭和期に奉納されたものだ。社殿内には、「聖旨奉体記念／神社造営」「昭和十二年九月竣工」と記された板がある。絵馬に記された年号によれば、最も古いものは1930（昭和5）年、新しいものは1964（昭和39）年に奉納されており、1937（昭和12）年社殿造営以前から引き継がれた絵馬と、以後に奉納された絵馬がどちらも社殿に掲額されていることがわかる。

字磯谷町横潤の伊都岐島神社については、2点の絵馬に、「昭和六十二年八月」と記されている（寿-5-7、寿-5-10）。社殿内の壁には、「昭和六十二年八月吉日／伊都岐島神社御造営／奉納」と題した板が掲げられており、そこに奉納物の名称と数、奉納者名が並んでいる。寿都町内の各氏によれば、伊都岐島神社は、1987（昭和62）年に、現在地より少し山側に位置していた稲荷神社と、海側にあった市杵島神社が合祀されたものだという。1987（昭和62）年奉納の絵馬2点（寿-5-7、寿-5-10）にそれぞれ記された奉納者名は、前述の板に「額」を奉納した者として記された名前と共通していることから、これらの絵馬は新しい社殿の造営を記念して奉納されたものだということがわかる。

今回は考察が及ばなかったが、奉納年代と画題を照らし合わせることによって、両者に関連性を見出すことができる可能性があるため、今後の研究課題としたい。

④奉納者名

奉納者名が記された絵馬の総数は93点だった。そのうち、33点には女性とみられる名前が記されている。女性によって奉納された絵馬のうち、25点は海神社で確認されたもので、林氏もこのことに言及している⁽³⁾。

⑤奉納者の住所

奉納者の住所が記された絵馬は39点確認された。そのうち、現在の寿都町や、その周辺地域から奉納された絵馬は31点ある。それ以外で北海道の地名が記されているのは3点で、うち2点は「亀田郡」（寿-1-8、寿-6-21）、残り1点は「長万部町」（寿-6-49）とある。残りの5点には、本州以南の地域名がみられた。それぞれ「加賀国」「越後」「越中」「能登」「秋田県」と、すべて日本海側に位置する地域から奉納されている。

⑥絵馬の制作者

落款や署名が記された絵馬は13点で、全体の10%にも満たない。ただ、画面内に落款や署名が記されていない絵馬の中にも、奉納者＝制作者と思われるものは複数あった。たとえば、押絵や、肉筆の油彩画などがその例である。だが、それを裏付ける証拠がないため、ここでは制作者の数に入れなかった。

「絵馬藤」の署名が入った船絵馬を3点確認できた（例：寿-1-12、写真：p.188）。絵馬藤は、主に明治期に大阪で活躍した絵馬師で、船や武者などの画題を得意とした。全国、特に日本海側を中心に、絵馬藤による船絵馬が数多く残されている。また、同じように描かれた船絵馬のなかには、落款が入っていないものもあった。船絵馬には、同じ絵馬師が描いたと思われる絵馬でも、落款が入ったもの、入っていないものがあることはすでに指摘されており（石井 1977）、描き方の特徴から絵馬師を特定する試みもなされている（昆 2012）。寿都町

に現存する無落款の絵馬についても、描き方を分析することによって、どの流派に属するものかを検討する必要がある。

⑦形態や材質

明治期の絵馬には、板に紙を貼り、そこに着色したものの(表2では「板紙貼彩色」と記す)が最も多く、41点中16点を占める。次いで多かったのが、厚紙で各部の形をつくり、それぞれに薄く綿を入れて布でくるんだ布細工(表2では「押絵」と記す)で、6点確認できた。板に直接描いた絵馬(以下、「板彩色」と記す)も4点ほど見られた。

大正期に奉納された絵馬5点については、それぞれ、板紙貼彩色、板彩色、石版画、写真、文字が彫られた木の板額で、別々の方法で制作されている。昭和期に入ると、その形態や材質は多種多様になる。明治期や大正期の絵馬に見られたような、板紙貼彩色の絵馬は確認できず、代わりに、印刷物や既製品と思われるレリーフなどに手書きで「奉納」の文字や奉納者名、奉納年月日を記したものがいくつか確認できた。油彩や押絵、写真、さらには写真をパズルにしたものも見られる。

3 船絵馬について

寿都町は、漁業を基幹産業として発展してきた町であり、豊漁や航海の安全を願って、船を画題とする絵馬「船絵馬」が多く奉納されたことは、すでに先行研究において指摘されたとおりである(林 1993: 102)。今回確認できた船絵馬の総数は20点だった。そのうち9点は、帆走する弁才船を横から見たすがたで描いたもの(例寿-1-10、寿-1-11、寿-1-12 写真: p.188)で、同じような様式の絵馬は北陸から東北、北海道にかけての日本海沿岸に多くみられる(昆 2012: 67)。これらの様式をもった船絵馬は、もともとすべて肉筆により描かれていたが、北前船による航海が活発になり、船絵馬の需要が増したことにより、1849(嘉永2)年ごろから、複雑な構造をもった船体部分の描写に版画を用いるようになった(石井 1977: 112-114)。今回確認した9点の船絵馬も、一見すると画面全体が肉筆で描かれているように見えるが、船体部分には版画が貼り付けられていることを確認できた。ただし、9点のうちすべての船体部分に版画が貼り付けられているかどうかについては、肉眼ではわからなかった。今後、拡大鏡などの道具を用いて、改めて確認したい。

大正期に奉納された船絵馬は1点のみで(寿-6-47 写真: p.189)、上記の様式には当てはまらない。宝を乗せた帆船を、正面から見たすがたが描かれている。

木などの素材で作った立体的なパーツを額に貼り付け

た船絵馬も6点みられるが、そのうち奉納年代が記された2点については、どちらも昭和に入ってから奉納されたものである(寿-5-10、寿-6-48 写真: p.189)。同じような方法で作られた船絵馬は、寿都町以外でも確認されている。筆者が直接確認しただけでも、寿都町と同じ後志管内では、余市町、岩内町において、同様の絵馬が1点ずつあった。類例は、岩手県や青森県の絵馬目録においても紹介されている⁽⁴⁾。

さらに、実物の船をそのまま小さくしたような、船の模型を計3点確認した。このうち1点は1971(昭和46)年に奉納されたもので、既製品と思われる洋式帆船の模型⁽⁵⁾を箱型の額に入れ、絵馬に仕立てたものだ。船の背景として、箱の内側には海と空が描かれ、そこに「奉納」の墨書、奉納者名、奉納者の持船と思われる船の名前が記されている(寿-7-3)。残りの2点は、専用の台に乗せられており、額には入っていない。本研究は「拝殿などに奉納されている額類」を調査対象としたので、基準に従えば、この2点は絵馬に含まれない。しかし、これらは船を題材とした奉納物であるという点で船絵馬と共通しているため、両者の関係について検討することで、新たな知見を提供できる可能性がある⁽⁶⁾。そこで、表2では、絵馬とは資料No.を区別して記載することにした⁽⁷⁾。模型の制作者は不明で、奉納者本人が手作りしたのかもしれないし、人に依頼した、既製品を購入した等、さまざまな可能性が考えられる。

今後も、絵馬調査の中で、船を画題とした半立体の額や、船模型の所在確認調査をあわせて実施していきたい。

4 林昇太郎氏の調査について

林氏の報告(林 1993)と、2019(令和元)年の調査結果を比べると、次のようなことがわかった。

(1) 林氏の報告に掲載された絵馬のうち、一部の所在が2019(令和元)年の調査では確認できなかった。本稿では、それぞれを挙げることはせず、2019(令和元)年調査で確認した絵馬を表にまとめ、現状を報告することに努めた。所在不明の絵馬については、林氏の調査写真自体が、絵馬が存在していたことを裏付ける貴重な資料となる。これらの記録写真は、北海道博物館にフィルムの状態で保管されている。高解像度でデジタルデータ化し、この30年の変化の記録としたい。

(2) 所在が確認できた絵馬の中にも、林氏の報告(林 1993)から状態が変化しているものが複数あった。たとえば、奉納者名などの記載事項が、林氏の報告には記録されているものの、その後紙の劣化や絵具の剥落などによって、2019(令和元)年調査では判読できなくなっているものなどがあった。本稿の表2では、林氏の報告

(林 1993) から情報を追加したものについては、その旨を明記した。

5 おわりに

本稿では、2019（令和元）年10月に実施した寿都町内絵馬調査の結果を報告してきた。最後に、今後の課題と展望を示す。

(1) 寿都町内の絵馬について

本稿では、絵馬の現存数や記載事項を報告するとともに、地域的な特徴を見出すには至っていない。今後、寿都町の地域の特徴や、歴史性をふまえて考察することによって、寿都町の生活文化史などに対して新たな知見を提供できる可能性がある。寿都町の学芸員の協力を得ながら、考察を深めていきたい。

(2) その他の地域の調査について

筆者は、積丹半島周辺地域における調査の一環として、2019（令和元）年に、岩内町、余市町でも現地調査を実施した。2020（令和2）年は、積丹町、神恵内村、泊村でも調査を行う予定である。これらの成果も、順次、報告していく。こうした調査を積み重ねることによって、各地域の絵馬に関する考察を深めていきたい。

さらに、長期的な展望としては、北海道全域に現存する絵馬のデータベースを作成することを考えている。データベースには、各絵馬から得られる情報をすべて格納し、分析や目録作成に活用する。それによって、北海道内の社寺に奉納された絵馬の全体像をとらえることができ、北海道の生活文化史などに対して新たな知見を提供できると考えている。

謝辞

今回の調査にあたっては、寿都神社宮司の山口智久氏、寿都町教育委員会の九谷葉澄氏、寿都町内の皆様、北海道博物館の三浦泰之氏、舟山直治氏にご協力・ご教示をいただいた。心より感謝申し上げます。

付記

筆者は、科学研究費助成事業・研究活動スタート支援「地理情報システムを用いた、北海道に現存する船絵馬の保存と活用に向けた試み」（課題番号：19K23124、研究期間：2019年8月30日～2021年3月31日）の一環として、寿都町において調査を実施した。本稿はその中間報告である。

註

- (1) 林氏の報告(林 1993:98)に記載された海神社の絵馬数は63点である。ただし、次のような要因で絵馬が増減することも考えられるため、単純に17枚の絵馬が増えたと判断することはできない。
 1. 林氏が「絵馬」とみなした額を、筆者は「絵馬」とみなさなかった。あるいはその逆もありうる。
 2. 新しい絵馬を掲げたので、絵馬が増えた。
 3. 古い絵馬を取り外したので、絵馬が減った。
 4. 2と3のどちらも行われたので、絵馬の数は変わらなかった。
- (2) たとえば、稲荷神社には、鳥居と狐が描かれた額が複数確認された。狐は稲荷神社の神使であるから、神仏図に分類することもできるが、ここでは動物図に分類した。
- (3) 林氏の報告(林 1993:103) 註1では、以下のように指摘されている。「北海道開拓記念館学芸員の舟山直治氏のご教示によれば、海神社における、女性を主体とした観音信仰の存在がかんがえられ、それと女性奉納絵馬との関連を検討する必要がある。」
- (4) (岩手県立博物館 1985:102)

「447. 浮彫船図 昭和28年(1953) 金刀比羅神社(大船渡市) (八戸市博物館 1987:128)

「736. 浮彫船図 大正三年(1914) 大祐神社(湊)」

「737. 浮彫船「蒼前丸」図 時代不詳 蒼前神社(櫛引)」

「738. 浮彫船「湊丸」図 時代不詳 大祐神社(湊)

「739. 浮彫船「幸福丸」図 昭和二年(1927) 新田八幡宮」
- (5) 船には英語名で別の船名が活字で記載されていることから、既製品と判断した。
- (6) 船絵馬と船模型の関連性については、(刀禰 1970:1)においては、以下のように指摘されている。
「絵馬のように考えていくと、船絵馬も、はじめは、船そのものを奉納したようである。実物と同じ船は神社に奉納できないので、模型の船を奉納したようで福井県内の神社には、北前船型の船は二十二艘奉納されてある。」
- (7) 例:資料No.「寿-9-模1」

参考文献

- 石井謙治 1977. 船舶画としての船絵馬とその流派. 海と日本人. 東海大学出版会.
- 石井謙治・安達裕之 2004. 船の科学館叢書4 船絵馬入門. 船の科学館.
- 岩手県立博物館 1985. 岩手の絵馬一祈りの画譜一. 岩手県立博物館.
- 河野村産業観光課編 1991. 海への祈り 海上安全奉納 船絵馬・船写真・石造物. 河野村役場.
- 刀禰勇太郎 1970. 越前・若狭の船絵馬について. 民具論集 2. 慶友社.
- 八戸市博物館 1987. 八戸の絵馬. 八戸市博物館.
- 林昇太郎 1986. 積丹半島の絵馬 北海道開拓記念館調査報告 25: 35-42.
- 林昇太郎 1987. 北海道の船絵馬調査ノート(Ⅰ). 北海道開拓記念館研究年報 15: 71-80
- 林昇太郎 1987. 小樽市・寿都町の絵馬. 北海道開拓記念館調査報告 26: 23-26
- 林昇太郎 1993. 積丹半島に現存する絵馬について. 積丹半島の自然と歴史一人文編一. 北海道開拓記念館研究報告 13: 97-112.
- 林昇太郎 2010. 林昇太郎美術史論集 アイヌ絵とその周辺. 北

海道出版企画センター.
 昆政明 2012. 青森県の船絵馬 青森県立郷土館研究紀要
 36: 67-82.
 北海道神社庁誌編輯委員会 1999. 北海道神社庁誌. 北海道神社庁.

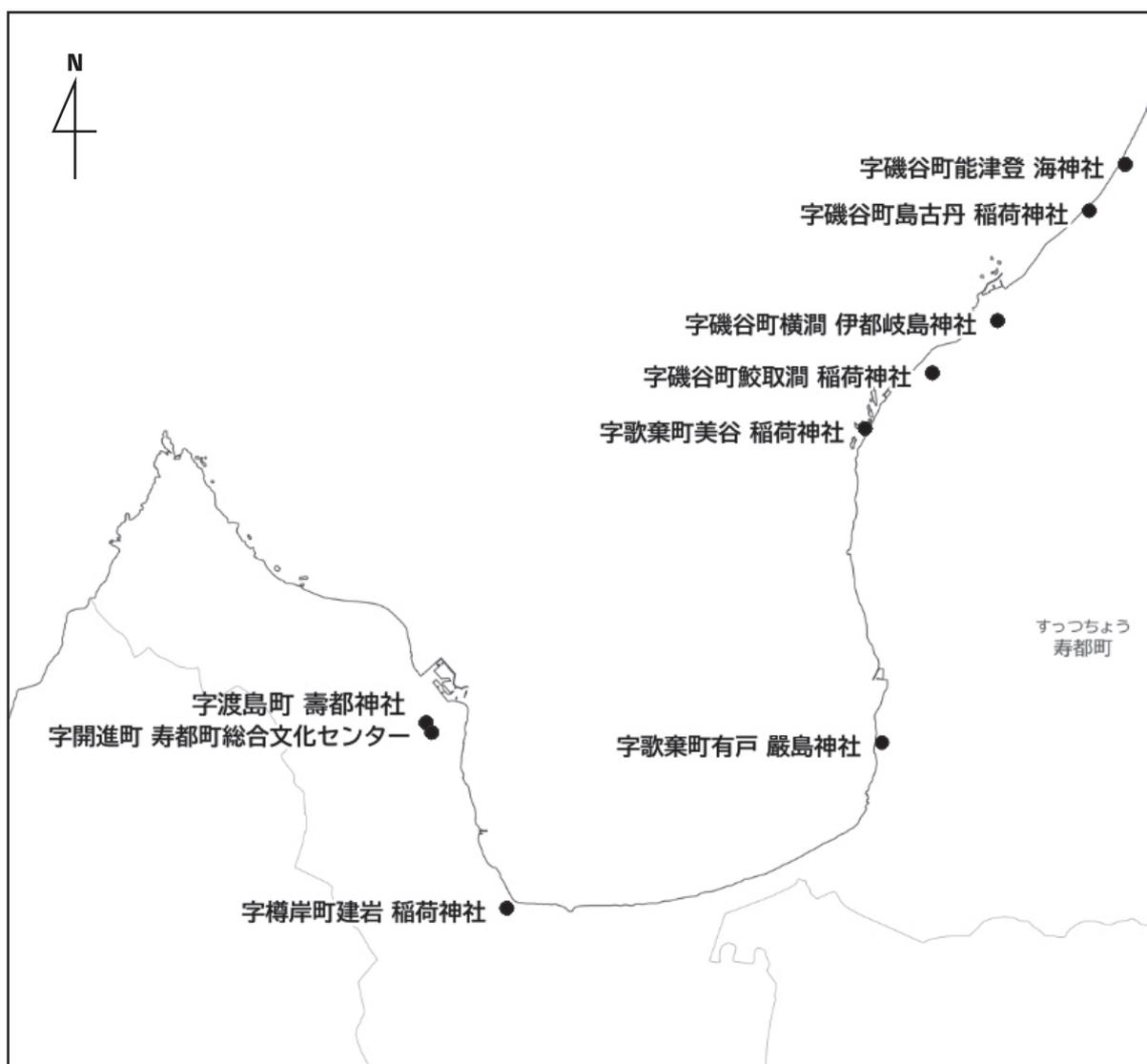
寿都町位置図



表1 所在地別絵馬数

所在地	絵馬数
字渡島町 寿都神社	12
字歌棄町有戸 巖島神社	2
字歌棄町美谷 稲荷神社	7
字磯谷町鮫取澗 稲荷神社	13
字磯谷町横澗 伊都岐島神社	12
字磯谷町能津登 海神社	80
字磯谷町島古丹 稲荷神社	4
字樽岸町建岩 稲荷神社	6
字開進町 寿都町総合文化センター	4
総計	140

調査地位置図



本図は、国土地理院による地理院タイル「白地図」に調査地を追記して作成したものである。

表2 所在地別絵馬一覧

資料No.	面題分類	面題	調査地	奉納年	西暦	記載内容	形態・材質 など	奉納者	奉納者の 住所	制作者	縦寸 (cm)	横寸 (cm)	縦内寸 (cm)	横内寸 (cm)	船 絵 馬
寿-1-1	馬	馬	字渡島町 壽都神社			(画面・墨書) 奉納、三浦三治郎 (画面内の鳥居・墨書) 弁財尊天 (裏・墨書) 明治参拾七歳七月廿四日、 奉納 施主 佐々木サタ/明治五年生 (裏・鉛筆書) 北海道胆振国山越郡長邁 部村、大工 西村弥三郎/全 嶋崎初 太郎/請負人/貳名組工	額装、油彩	三浦三治郎	三浦三治郎?	三浦三治郎?	37.0	50.9	30.0	43.5	
寿-1-2	神仏	弁才天	字渡島町 壽都神社	明治37	1904		額装、板彩色	佐々木サタ			38.6	66.8	30.2	68.5	
寿-1-3	武者	武者絵	字渡島町 壽都神社	明治35	1902	(額・墨書) 奉納、明治三十五年拾月旧 拾五日、寿都大磯町、武田み江子 (画面・墨書) 応需/棋芳筆[白文方印] [白文方印]	額装、板紙貼 彩色	武田み江子	寿都大磯町	棋芳	56.0	88.4	47.6	80.0	
寿-1-4	風景	風景(川?と水車)	字渡島町 壽都神社	昭和11	1936	(裏・墨書) 昭和拾一年十二月八日、佐々 木正次郎	額装、石版画	佐々木正次 郎			35.5	46.2	29.4	39.7	
寿-1-5	風景	風景(富士山)	字渡島町 壽都神社	昭和12	1937	(裏・墨書) 昭和十二年六月十三日、奉 納、矢追町、佐々木長芳	額装、石版画	佐々木長芳	矢追町		35.1	45.6	29.2	39.6	
寿-1-6	祭礼・祭 具	銭鳥居額	字渡島町 壽都神社	明治43	1910	(画面・墨書) 奉納、明治四十三年/七 月二十四日、寿都町大字新栄町、富樫 タツ/森山嘉之助	額装、板に細 工物貼付	富樫タツ 森山嘉之助	寿都町大字 新栄町		68.5	57.9	59.0	48.5	
寿-1-7	祭礼・祭 具	宝剑額	字渡島町 壽都神社	昭和11	1936	(画面・文字の形の細工貼付) 奉納 (額・旗の形の細工) NSC (額・細工した板の上に赤色で手書) 東 光丸救助員一同、昭和十一年六月	額装、板に細 工物貼付	NSC 東 光丸救助員 一同			110.0	56.0	91.0	36.2	
寿-1-8	動物	トナカイ	字渡島町 壽都神社	大正10	1921	(画面右上・墨書) 邦語ノ馴鹿ノ露語ノ アレニ、露領勅察加及ビ/沿海州地 方ニ成育ス/土人は是レヲ山野ニ放牧ス /土人ハ皮ヲ着キ肉ヲ食料トス/土人 ハ此ニ乗り/或ハ冬季麓ヲ曳カシム、 原籍地壽都町大字矢追/当時亀田郡亀 田村字中道、奉納者 中村豊太郎、大 正十三年三月吉日	石版画(もと もと額装され ていたが、額 破損のため絵 だけ保管)	中村豊太郎	亀田郡亀田 村		36.0	48.5			
寿-1-9	動物	雀	字渡島町 壽都神社			(画面・墨書) 奉納、豊原つよ	額装、刺繍を 施した布	豊原つよ			43.2	46.7	38.2	41.8	
寿-1-10	船	弁才船	字渡島町 壽都神社	明治12	1879	(画面・右の枠・墨書) 奉納、明治十二 年十一月十九日、壽都中歌、小林佐多 女	額装、板紙貼 彩色	小林佐多女	壽都中歌		26.0	37.6	23.0	34.3	○
寿-1-11	船	弁才船 広徳丸、 福丸、昇徳丸	字渡島町 壽都神社	明治13	1880	(画面・右上枠・墨書) 奉獻、明治十三 年/辰五月吉日 (画面・右下枠・墨書) 加賀国瀬越村、 角谷與七/広海彦太郎/広海喜平/以 上 (画面・船の幟・墨書) 広福丸/昇徳丸 /広徳丸 (画面・白で手書) 大阪黒金橋/絵馬藤 筆[花押] (裏・墨書) 幸	額装、板紙貼 彩色	角谷與七 広海彦太郎 広海喜平	加賀国瀬越 村	絵馬藤	77.1	101.0	62.1	86.5	○

資料No.	画題分類	画題	調査地	奉納年	西暦	記載内容	形態・材質 など	奉納者	奉納者の 住所	制作者	縦寸 (cm)	横寸 (cm)	縦内寸 (cm)	横内寸 (cm)	船 絵 馬
寿-1-12	船	弁才船 伊勢丸	字渡島町 壽都神社	明治21	1888	(画面・右上枠・墨書) 奉納、明治廿一年 (画面・右下枠・墨書) 越後西頸城郡鬼伏村、増田助次郎 (画面・墨書) 大阪黒金橋/絵馬藤筆[花押] (画面・船の轆・墨書) 伊勢丸 (画面・船旗・赤で手書) △ (裏に貼られたラベル・木版・墨一色) 大阪北堀口、絵馬/羽子板、岩城/ゑんま藤	額装、板紙貼 彩色	増田助次郎	越後西頸城郡鬼伏村	絵馬藤	57.7	77.0	47.8	66.8	○
寿-2-1	神仏	七福神	字歌葉町有戸 嚴島神社	明治12	1879	(画面・右上枠・墨書) 明治十二年/第五月日、奉納、越中海老江浦吉三良/種前村太岡田清太郎	額装、板紙貼 彩色	岡田清太郎	越中海老江浦(奉納者1 吉三良)・種前村(奉納者2 岡田清太郎)		73.0	129.5			
寿-2-2	神社境内・ 外観	安芸の宮島	字歌葉町有戸 嚴島神社	明治14	1881	(画面・右上枠・墨書) 奉納、明治十四年/巳六月吉日 (画面・左下枠・墨書) 種前村、新中/吉三郎	額装、板紙貼 彩色	新中吉三郎	種前村		86.0	174.5			
寿-3-1	動物	向狐図	字歌葉町美谷 稻荷神社			(画面・墨書) 奉納、有川村、川村由太郎	額装、板紙貼 彩色	川村由太郎	有川村						
寿-3-2	動物	向狐図	字歌葉町美谷 稻荷神社	昭和34	1959	(額・墨書) 奉納、昭和三十四年七月二十五日、渡辺喜一郎	額装、切絵	渡辺喜一郎							
寿-3-3	物語	高砂	字歌葉町美谷 稻荷神社				額装、刺繍								
寿-3-4	船	弁才船 大漁丸	字歌葉町美谷 稻荷神社			(額・墨書) 西田作蔵、四月二日 (画面・船の轆・墨書) 大漁丸	額装、板紙貼 彩色	西田作蔵			37.5 (林報 告によ る)	48.0 (林報 告によ る)			○
寿-3-5	船	洋式帆船	字歌葉町美谷 稻荷神社			(板に刻字) 奉納、龍、大正九年一月元日、佐々木勝一	額装、印刷								○
寿-3-6		文字額「龍」	字歌葉町美谷 稻荷神社	大正9	1920		木の板額、刻 字	佐々木勝一							
寿-3-7		文字額「稻荷社」	字歌葉町美谷 稻荷神社			(板に浮彫) 稻荷社	木の板額、浮 彫								
寿-4-1	馬	神馬	字磯谷町殿取淵 稻荷神社	明治19	1886	(画面・右上枠・墨書) 奉納、明治十九年/戊四月吉日 (画面・左下枠・墨書) 磯谷郡磯谷村、坂井ツヨ、当十七年 (画面・ひっかき傷) いたるところに、ひっかいたような跡で「坂井ツヨ」「ツヨ」「坂井」の文字が刻まれている	額装、板紙貼 彩色	坂井ツヨ	磯谷郡磯谷村						
寿-4-2	武者	牛若丸	字磯谷町殿取淵 稻荷神社	明治5	1872	(画面・墨書) 奉納、明治五壬申年四月吉日、北村屋佐兵衛	額装、板彩色	北村屋佐兵衛							

資料No.	画面分類	画面	調査地	奉納年	西暦	記載内容	形態・材質 など	奉納者	奉納者の 住所	制作者	縦寸 (cm)	横寸 (cm)	縦内寸 (cm)	横内寸 (cm)	船 絵 馬
寿-5-6	神社境内・ 外観	市杵島神社外観	字磯谷町横潤 伊都岐島神社	(昭和62)	(1987)	(額に付けられた板・墨書) 岩谷光男作 寄贈	額装、布細工	岩谷光男		岩谷光男					
寿-5-7	神社境内・ 外観	市杵島神社外観	字磯谷町横潤 伊都岐島神社	昭和62	1987	(写真・外側) 余白・墨書) 奉納、逢見未 太郎、昭和六十二年八月吉日	額装、写真	逢見未太郎							
寿-5-8	神社境内・ 外観	市杵島神社外観写真	字磯谷町横潤 伊都岐島神社			(額・ガラスに貼られた紙・手書) 寄贈 岩谷典春	額装、細工物								
寿-5-9	神社境内・ 外観	市杵島神社外観	字磯谷町横潤 伊都岐島神社				額装、細工物								
寿-5-10	船	洋式帆船	字磯谷町横潤 伊都岐島神社	昭和62	1987	(画面・余白・金・手で手書) 川地久男、 奉納、昭和六十二年八月吉日	額装、板に細 工物貼付(立 体)	川地久男							○
寿-5-11		氏子集合写真	字磯谷町横潤 伊都岐島神社			(写真に写りこんだ幟) 「市杵島神社」	額装、写真								
寿-5-12		文字額「星霜百年」	字磯谷町横潤 伊都岐島神社	昭和57	1982	(本紙・墨書) 星霜百年、昭和五十七年 八月十五日、祝 横潤小学校、蓬草書 [朱文方印]	額装、紙、墨								
寿-6-1	馬	神馬	字磯谷町能津登 海神社	明治36	1903	(画面・墨書) 奉納、明治三拾六年九月 吉日、磯谷郡北尻別村中	額装、板紙貼 (一部のみ著 色)	磯谷郡北尻 別村中	磯谷郡北尻 別村中						
寿-6-2	馬	神馬	字磯谷町能津登 海神社	明治39	1906	(画面・墨書) 明治三十九年九月一日、 南尻別村字目名、岩本	額装、板紙貼 彩色	岩本	南尻別村字 目名						
寿-6-3	馬	神馬	字磯谷町能津登 海神社	明治43	1910	(画面・白で手書) 奉納、明治四拾参年 八月一日、後志国磯谷郡磯谷村/字島 古丹村、佐藤千代	額装、押絵	佐藤千代	後志国磯谷 郡磯谷村						
寿-6-4	馬	神馬	字磯谷町能津登 海神社			(画面・墨書) 奉納	額装、板彩色 または板紙貼 彩色								
寿-6-5	馬	神馬	字磯谷町能津登 海神社			(画面・墨書) 奉納、願主 齋藤秀雄	額装、板彩色	齋藤秀雄							
寿-6-6	馬	神馬	字磯谷町能津登 海神社			(額・墨書) 磯谷村大字能津登、種村惣 五郎	額装、版面?	種村惣五郎	磯谷村大字 能津登						
寿-6-7	神仏	七福神のうち三神?	字磯谷町能津登 海神社				額装、板に細 工物貼付								
寿-6-8	神仏	恵比寿と大黒天	字磯谷町能津登 海神社			(画面・墨書) 奉納、鳴古丹村、西川と き	額装、押絵	西川とき	鳴古丹村						
寿-6-9	神仏	恵比寿と大黒天	字磯谷町能津登 海神社			(画面中央・色は退色のため不明・手 書) 寿	額装、板に細 工物貼付								
寿-6-10	神仏	大黒天	字磯谷町能津登 海神社				額装、ガラス 絵								
寿-6-11	神仏	福祿寿	字磯谷町能津登 海神社			(画面・墨書) 福祿を/かねたる/人の /席書は/寿の字を/永く筆に/延け り、文/文明閑人[白文方印]	額装、紙本墨 画淡彩			文明閑人					

資料No.	画題分類	画題	調査地	奉納年	西暦	記載内容	形態・材質 など	奉納者	奉納者の 住所	制作者	縦寸 (cm)	横寸 (cm)	縦内寸 (cm)	横内寸 (cm)	船 絵 馬
寿-6-12	神仏	七福神	字磯谷町能津登 海神社	明治25	1892	(額・墨書) 奉納、明治廿五年九月廿一日吉、島古丹村/吉田福蔵 (画面・墨書) 奉納、明治廿五年九月廿一日吉、島古丹村/吉田福蔵 /とをのねふりの/みなめさめ/なみのりふねの/おとのよきかな	額装、白黒印刷	吉田福蔵	島古丹村		38.5	49.0	29.0	39.3	
寿-6-13	物語	神功皇后と武内宿禰	字磯谷町能津登 海神社	明治20	1887	(額・墨書) 奉納、明治廿年/丁亥 五月吉祥日	額装								
寿-6-14	物語	神功皇后と武内宿禰	字磯谷町能津登 海神社	明治28	1895	(額・桃色で手書) 奉納、明治廿八年三月、酉年女	額装、押絵	酉年女							
寿-6-15	物語	神功皇后と武内宿禰	字磯谷町能津登 海神社	明治33	1900	(額・墨書) 奉納、磯谷郡島古丹村、願主 志波ミサ女、明治参拾三年第七月廿七日	額装、板紙貼彩色	志波ミサ	磯谷郡島古丹村						
寿-6-16	物語	高砂	字磯谷町能津登 海神社	明治39	1906	(画面・墨書) 奉納、明治廿九年三月三月綱御祝日、能津登、弓/吉崎美輪、七拾三歳老	額装、押絵	吉崎美輪	能津登						
寿-6-17	武者	加藤清正	字磯谷町能津登 海神社	明治26	1893	(額・墨書) 奉納、磯谷能津登村、川島美代 (画面・墨書) 願主 歌葉郡美谷村、竹村なよ、明治廿六年/二月四日	額装、板彩色	川島美代	磯谷能津登村		56.5 ※林報告による	77.0 ※林報告による			
寿-6-18	武者	加藤清正	字磯谷町能津登 海神社	明治26	1893	(画面・墨書) 願主 歌葉郡美谷村、竹村なよ、明治廿六年/二月四日	額装、板彩色	竹村なよ	歌葉郡美谷村						
寿-6-19	武者	重盛譚言凶	字磯谷町能津登 海神社	明治34	1901	(額・墨書) 明治三十四年、上福ハル	額装、印刷	上福ハル							
寿-6-20	武者	義経と弁慶	字磯谷町能津登 海神社	明治43	1910	(額・墨書) 奉納、磯谷郡ノツト村、願主 笹本孝次郎、明治四拾三年第七月廿日	額装、印刷	笹本孝次郎	磯谷郡ノツト村						
寿-6-21	風景	風景(中景に帆船、遠景に山)	字磯谷町能津登 海神社			(額・赤色で手書) 亀田郡根崎、松田富太郎	額装、油彩	松田富太郎	亀田郡根崎						
寿-6-22	風景	風景(川、小舟)	字磯谷町能津登 海神社			(画面・墨書) 奉納、尻別村字桶津ヶ澤、小平清次郎、敬白	額装、印刷	小平清次郎	尻別村字桶津ヶ澤						
寿-6-23	風景	風景(中景に帆船、遠景に山)	字磯谷町能津登 海神社				額装、印刷?								
寿-6-24	風景	風景(外国の港)	字磯谷町能津登 海神社			(額・墨書) 奉納、磯谷郡磯谷村大字島古丹村、志波リサ	額装、印刷	志波リサ	磯谷郡磯谷村大字島古丹村		37.3	47.3	29.7	39.5	
寿-6-25	風景	風景(天橋立)	字磯谷町能津登 海神社			(画面・墨書) 奉納	額装、印刷								
寿-6-26	風景	風景(東京上野)	字磯谷町能津登 海神社				額装、印刷								
寿-6-27	風景	風景(橋)	字磯谷町能津登 海神社				額装、ガラス絵								
寿-6-28	風景	風景(地蔵、草花、家屋)	字磯谷町能津登 海神社			(額・フレイムに貼られた紙・活字) 奉納、小野としえ	額装	小野としえ							
寿-6-29	風景	風景(松島?)	字磯谷町能津登 海神社	明治		(画面外側余白・活字) 大日本帝国三景、明治三年九月十日□□□	額装、印刷								

資料No.	画面分類	画面	調査地	奉納年	西暦	記載内容	形態・材質 など	奉納者	奉納者の 住所	制作者	縦寸 (cm)	横寸 (cm)	縦内寸 (cm)	横内寸 (cm)	船 絵 馬
寿-6-30	風景	風景 (富士山・帆船)	字磯谷町能津登 海神社	明治25	1892	(額・墨書) 明治貳拾五年一月廿八日、磯谷郡磯淵村、佐藤榮五郎 母	額装、ガラス 絵	佐藤榮五郎 母	磯谷郡磯淵 村		37.0	47.0	29.0	39.0	
寿-6-31	風景	風景 (橋、小舟、雪 景色)	字磯谷町能津登 海神社	明治39	1906	(画面・墨書) 奉納 (額にはさまれた名刺・活字) 磯谷郡磯 谷村/字嶋古丹、吉田福藏 (額にはさまれた名刺・墨書) 明治参拾 九年/旧七月十日納	額装、印刷	吉田福藏	磯谷郡磯谷 村/字嶋古 丹						
寿-6-32	風景	風景	字磯谷町能津登 海神社	明治43	1910	(額・墨書) 奉納、明治四十四年七月吉 日、北尻別村西土場、工藤みさ	額装、油彩	工藤みさ	北尻別村西 土場						
寿-6-33	風景	風景	字磯谷町能津登 海神社	昭和16	1941	(額・墨書) 奉納、昭和十六年六月二十 一日、小野未治	額装、油彩	小野未治			34.7	44.5	23.0	32.3	
寿-6-34	動物	鶴	字磯谷町能津登 海神社			(画面・墨書) 署名を印刷) 嶽山[朱文 方印「□□」]	額装、印刷			嶽山					
寿-6-35	動物	虎	字磯谷町能津登 海神社			(額内にはさまれた紙・活字) 奉納、福 井義隆	額装、布細工	福井義隆							
寿-6-36	動物	虎?	字磯谷町能津登 海神社			(額内にはさまれた紙・活字) 奉納、永 井孝藏	額装、布細工	永井孝藏							
寿-6-37	動物	花鳥図	字磯谷町能津登 海神社			(額・ガラス面の上から黒いペンで書き 込み) 奉納 ※それ以外にも書き込ん だ形跡がみられるが、ほとんど消えて おり判読できない。	額装、ガラス 絵	不明							
寿-6-38	動物	大根、ネズミ	字磯谷町能津登 海神社	大正4	1915	(画面・墨書) 大正四年一月十五日、願 主/山口清吉	額装、板彩色	山口清吉							
寿-6-39	動物	猫	字磯谷町能津登 海神社	昭和47	1972	(額にはさまれた紙・黒の油性ペンで手 書) 福井、S・47・12	額装、布など を使った細工 物貼付	福井							
寿-6-40	天皇	明治天皇一家	字磯谷町能津登 海神社	明治38	1905	(額・墨書) 奉納、明治三十八年九月吉 日 ※林報告による	額装、印刷								
寿-6-41	天皇	明治天皇一家	字磯谷町能津登 海神社			(額・墨書) 奉納	額装、印刷								
寿-6-42	神社境内・ 外観	海神社社殿内部 (写 真)	字磯谷町能津登 海神社			(額内下部にはさんだ紙・墨書) 奉納 福井義隆	額装、写真	福井義隆							
寿-6-43	神社境内・ 外観	神社外観 (写真)	字磯谷町能津登 海神社				額装、写真								
寿-6-44	船	舟才船 大漁丸	字磯谷町能津登 海神社	明治27	1894	(画面・船旗) [日の丸] (画面・船の轆・墨書) 大漁丸 (画面・白で手書) 大阪黒金橋 絵馬藤 筆[花押] 奉納、明治貳拾七年旧六月 一日、北海道後志国磯谷郡能津登村、願 主 工藤國太郎	額装、板紙貼 彩色	工藤國太郎	北海道後志 国磯谷郡能 津登村	絵馬藤	57.3	77.0	46.5	66.5	○

資料No.	画題分類	画題	調査地	奉納年	西暦	記載内容	形態・材質 など	奉納者	奉納者の 住所	制作者	縦寸 (cm)	横寸 (cm)	縦内寸 (cm)	横内寸 (cm)	船 絵 馬
寿-6-45	船	弁才船 神徳丸	字磯谷町能津登 海神社	明治27	1894	(画面・墨書) 奉納 (画面右・枠・墨書) 明治廿七年旧三月 吉日、磯谷郡能津登村/吉崎雄太郎 (画面・船の幟・墨書) 神徳丸	額装、板紙貼 彩色	吉崎雄太郎	磯谷郡能津 登村		31.0	42.0	23.8	34.5	○
寿-6-46	船	弁才船 大漁丸	字磯谷町能津登 海神社	明治27	1894	(画面・墨書) 奉納 (画面右・枠・墨書) 明治二十七年旧六 月二十一日、能津登村、願主 伊瀬久 之助 三十六才 ※林報告による (画面・船の幟・墨書) 大漁丸	額装、板紙貼 彩色	伊瀬久之助 ※林報告に よる	能津登村		31.2	41.7	24.0	34.5	○
寿-6-47	船	宝船	字磯谷町能津登 海神社	大正12	1923	(額・墨書) 奉納、大正拾貳年二月吉日、 願主 齋藤サタ	額装、板紙貼 彩色	齋藤サタ			66.7	46.4	57.3	36.9	○
寿-6-48	船	蒸気船	字磯谷町能津登 海神社	昭和20	1945	(額・墨書) 奉納、昭和二十年正月十五 日、北尻別村、朱田豊作	額装、板に細 工物貼付(立 体)	朱田豊作	北尻別村		44.5	99.0	87.0	32.5	○
寿-6-49	船	漁船	字磯谷町能津登 海神社	昭和41	1966	(写真台紙・墨書) 奉納、昭和四十一年 六月二十二日、海上安全、願主 長萬 部町 馬場ミエ (写真に写りこんだ船の側面) 獲産丸	額装、写真	馬場ミエ	長萬部町						○
寿-6-50	船	洋式帆船 金小丸	字磯谷町能津登 海神社			(額・桃色で手書) 金小丸、願主 能津 登村、金谷柏蔵 (額付近に、画面から落ちたと思われる 日の丸が引っかけかかっている)	額装、板に細 工物貼付(立 体)	金谷柏蔵	能津登村		42.0	54.7	34.0	48.6	○
寿-6-51	船	洋式帆船	字磯谷町能津登 海神社				額装、板に細 工物貼付(立 体)								○
寿-6-52	船	船	字磯谷町能津登 海神社				額装、板に細 工物貼付(立 体)								○
寿-6-53	船	洋式帆船	字磯谷町能津登 海神社				額装、板に細 工物貼付(立 体)				64.5	90.0	62.0	88.0	○
寿-6-54	女性	外国人少女と鳩	字磯谷町能津登 海神社	明治44	1911	(額・墨書) 明治四拾四年九月廿一日 新調、磯谷郡磯谷村字島古丹、中村リ サ	額装、印刷	中村リサ	磯谷郡磯谷 村字島古丹						
寿-6-55	女性	洋装の婦人	字磯谷町能津登 海神社				額装、印刷								
寿-6-56	女性	美人詠歌之圖	字磯谷町能津登 海神社			(画面下・余白・活字) 美人詠歌之圖	額装、印刷								
寿-6-57	女性	女官と少女	字磯谷町能津登 海神社	明治37	1904	(額・墨書) 奉納、明治三十七年第七月 吉辰、願主 山口ツネ (画面右上・墨書) 山口ツネ	額装、押絵	山口ツネ							
寿-6-58	人物	人物	字磯谷町能津登 海神社	明治37	1904	(額・墨書) 奉納、明治三拾七年九月廿 二日、願主 長尾リウワ	額装、押絵	長尾リウワ							

資料No.	画題分類	画題	調査地	奉納年	西暦	記載内容	形態・材質 など	奉納者	奉納者の 住所	制作者	縦寸 (cm)	横寸 (cm)	縦内寸 (cm)	横内寸 (cm)	船 絵 馬
寿-6-59	女性	花魁	字磯谷町能津登 海神社	明治42	1909	(額・墨書) 奉納、明治四拾貳年旧九月 貳拾貳日、願主、歌養郡歌養村大字美 谷、黒田トミノ、歌白	額装、押絵	黒田トミノ	歌養郡歌養 村大字美谷						
寿-6-60		男性像(上半身)	字磯谷町能津登 海神社	昭和59	1984	(額・ガラスに貼られた紙・墨書) 奉納、 横山エス、昭和五十九年十二月吉日	額装、押絵	横山エス							
寿-6-61		連獅子?	字磯谷町能津登 海神社	昭和59	1984	(額・ガラスに貼られた紙・墨書) 奉納、 横山エス、昭和五十九年十二月吉日	額装、押絵	横山エス							
寿-6-62		連獅子?	字磯谷町能津登 海神社			(額にはさまれた紙・活字) 奉納、小野 としえ	額装、押絵	小野としえ							
寿-6-63	女性	婦人	字磯谷町能津登 海神社	平成5	1993	(額・ガラスに貼られた紙・墨書) 平成 五年六月二十一日、奉納、横山エス	額装、押絵	横山エス							
寿-6-64	女性	傘を持った婦人	字磯谷町能津登 海神社			(額にはさまれた紙・活字) 奉納、小野 としえ	額装、押絵	小野としえ							
寿-6-65	女性	婦人	字磯谷町能津登 海神社				額装、押絵								
寿-6-66		牛に乗った人物	字磯谷町能津登 海神社				額装、押絵								
寿-6-67		子供遊戯	字磯谷町能津登 海神社			(画面・白で手書) 奉納 (額・墨書) 森久作	額装、押絵	森久作							
寿-6-68		子供遊戯	字磯谷町能津登 海神社	明治33	1900	(画面・墨書) 奉納、明治三十三庚子 (以下、虫食いにより読み取れず)、猪 田賢次 ※以下、虫食いにより読み取れず	額装、板紙貼 彩色	猪田賢次 ※林報告に よる							
寿-6-69		相撲	字磯谷町能津登 海神社				額装、紙本着 色	不明							
寿-6-70		雪見灯籠	字磯谷町能津登 海神社			(画面・手書の署名を印刷) 素口(白文 方印)	額装、印刷?	素口(白文 方印)							
寿-6-71		弘前城(写真)	字磯谷町能津登 海神社	昭和53	1978	(額・フレーム部分・墨書) 昭和五十三 年六月二十一日、八十歳記念、藤田キ ヨ、奉納	額装、写真を ジグソーパズ ルにしたもの	藤田キヨ							
寿-6-72		海上渡御	字磯谷町能津登 海神社	平成4	1992	(額・墨書) 奉納、平成四年度祭典、贈 平島勝征	額装、モノク ロ写真	平島勝征							
寿-6-73		鈴	字磯谷町能津登 海神社	平成10	1998	(額・ガラスに貼られた紙・活字) 平成 10年8月、奉納、横山エス	額装、板に布 製の細工物貼 付	横山エス							
寿-6-74		文字額「海神社」	字磯谷町能津登 海神社			(本紙・墨書) 海神社、蓬草書(白文方 印)[朱文方印「蓬草」]	額装、紙、墨								
寿-6-75		文字額「奉納 海神 社」	字磯谷町能津登 海神社			(本紙・墨書) 海神社、奉納、願主 横 山竹蔵	額装、紙、墨	横山竹蔵							
寿-6-76		文字額「海神社」	字磯谷町能津登 海神社			(板・金色で手書) 海神社、能登輪島、 宮野茂助	板額、金字	宮野茂助	能登輪島						

資料No.	面題分類	面題	調査地	奉納年	西暦	記載内容	形態・材質 など	奉納者	奉納者の 住所	制作者	縦寸 (cm)	横寸 (cm)	縦内寸 (cm)	横内寸 (cm)	船 絵 馬
寿-6-77		文字額「海神社」	字磯谷町能津登 海神社			(本紙・墨書) 海神社 ※調査時に撮影した記録写真では、この絵馬は他の絵馬の背後に隠れているかまっっており、他に何が書かれていたか読み取れず	額装、紙、墨								
寿-6-78		文字額「正一位 稲荷大明神」	字磯谷町能津登 海神社			(板・細工物貼付) 正一位 稲荷大明神	木の板額								
寿-6-79		文字額「観音堂」	字磯谷町能津登 海神社	明治39	1906	(本紙・墨書) 征露記念、奉納、明治三十九年六月吉日、清藤浅吉、敬白、奉天府鉄嶺県調兵山貢生口口王白文方印	額装、紙、墨	清藤浅吉							
寿-6-80		文字額「英武通天」	字磯谷町能津登 海神社	昭和14	1939	(背骨の布に黒い布で細工) 英武通天(画面・墨書) 界首站警備隊大西隊長徳政 記念、中華民國二十八年四月二十六日、山東省省長清藤、界首愛護村全體公領	額装、布								
寿-6-模1	船	船(模写)	字磯谷町能津登 海神社			(上台に貼られたシル・活字) 奉納、富谷富夫様	木、糸、布などを用いた模写	富谷富夫			73.0	80.0			
寿-7-1	馬	馬三頭	字磯谷町島古丹 稲荷神社			(額・フレーム・墨書) 奉納、久保田弥吉	額装、風景画に浮彫貼付	久保田弥吉							
寿-7-2	神仏	七福神	字磯谷町島古丹 稲荷神社	昭和51	1976	(額・金色で手書) 贈、隆實丸、小川、昭和51年8月吉日 (画面・金色の細工) 松庵、七福神、純金紙銀鍍金 (額に貼られたシル) 黄金七福神	額装、板に細工物貼付(既製品)	小川		松庵					
寿-7-3	船	洋式帆船(箱型の額入り模写)	字磯谷町島古丹 稲荷神社	昭和47	1972	(額の表・墨書) 奉納、幸豊丸 (額の裏・墨書) 昭和四十七年/子年初午 (船模型の土台にプリントされた活字) FALCON	箱型の額、背景に海と空、箱の内部に船模写(おそろしく既製品)を取付				37.5	47.4	29.5	39.5	○
寿-7-4	船	洋式帆船(操舵輪型の飾り)	字磯谷町島古丹 稲荷神社	昭和46	1971	(余白・墨書) 奉納、高島鋳吉郎、昭和四十六年八月 (下部に貼られたシル・活字) 熱海温泉	操舵輪型の板にイラストをプリント(既製品)	高島鋳吉郎			29.5	29.5			○
寿-8-1	馬	馬三頭	字磯谷町能津登 稲荷神社			(画面左下・赤で手書された署名が印刷されている) M.Watanabe	額装、印刷			M.Watanabe					
寿-8-2	神仏	風神雷神	字磯谷町能津登 稲荷神社	昭和13	1938	(台紙・墨書) 奉納、昭和十三年(以下、紙の劣化により判読不可)、高村(以下、紙の劣化により判読不可)	額装、印刷								
寿-8-3	動物	狛犬	字磯谷町能津登 稲荷神社	昭和39	1964	(額・墨書) 奉納、昭和四拾年八月貳拾日、北村善吉 (画面左下・黄色の油絵具で手書) 1964.MORIYA	額装、油彩	北村善吉		MORIYA					

資料No.	面題分類	面題	調査地	奉納年	西暦	記載内容	形態・材質 など	奉納者	奉納者の 住所	制作者	縦寸 (cm)	横寸 (cm)	縦内寸 (cm)	横内寸 (cm)	船 絵 馬
寿-8-4	天皇	昭和天皇夫妻、軍艦山城(写真)	字樽岸町建岩 稲荷神社	昭和5	1930	(台紙に手書)奉納、昭和五年八月十五日、石澤賢蔵(台紙に印刷された活字)大日本帝國軍艦山城	額装、印刷された写真	石澤賢蔵							
寿-8-5	神社境内・外観	護国神社?外観(写真)	字樽岸町建岩 稲荷神社	昭和10以降	1935以降	(額に貼られた紙、金色の手書文字が印刷されている)護国、陸軍大将男爵荒木貞夫書	額装、写真								
寿-8-6		文字額「稲荷大明神」	字樽岸町建岩 稲荷神社			(本紙)稲荷大明神	額装、紙、墨								
寿-9-1	風景	夜桜の風景	字開進町 寿都町総合文化センター	明治30	1897	(画面・右上枠・ガラス絵の技法で手書風に記載)夜桜の風景(裏・墨書)明治三拾歳七月九日、奉納、稲荷大明神 □□かしく	額装、ガラス絵								
寿-9-2	風景	風景(噴水がある外国の都市)	字開進町 寿都町総合文化センター	明治32	1899	(額・墨書)奉納、明治三拾二年八月、敬白、武田みい	額装、印刷	武田みい							
寿-9-3	祭礼・祭具	銭鳥居額	字開進町 寿都町総合文化センター			(画面・墨書)奉納、秋田県河辺郡新屋村、三吉大神、平民/佐藤角治/全五郎	額装、板に「寛永通宝」を貼付	平民 佐藤角治/全五郎	秋田県河辺郡新屋村						
寿-9-4	祭礼・祭具	銭鳥居額	字開進町 寿都町総合文化センター	昭和59? 1984?		(画面・墨書)奉納、天間(裏・墨書)明治四十二年八月二十七日生七十五才	額装、布地の背景に五円玉、一円玉を貼付	天間							
寿-9-模1	船	船(模写)	字開進町 寿都町総合文化センター	昭和16	1931	(台・白で手書)奉納 政治神社、奉納者/沖田藤一、照(ママ)和六年八月四日(船の旗1・墨書)祝大漁、第一寿丸、 新 小田(船の旗2・墨書)祝大漁、第一/寿丸、 新 木石田(船の旗3・墨書)祝大漁、第一寿丸、 三 仁岸	木、糸、布などをを用いた模写型	沖田藤一							

凡例

- リスト内の記載事項について
 - () : かつこの後に続く記載事項が記された箇所と記載方法
 - 、 : () 内にある記載事項のうち、「奉納者の住所、奉納者名、年代」など、意味の区切りとなる箇所
 - / : 「」内にある記載事項のうち、改行箇所
 - : 解読できなかった文字

例：(画面・墨書)奉納、明治四十三年、七月二十四日、寿都町大字新栄町、富樫タツ、森山嘉之助

- 本稿では、神社に奉納された額をリストに記録した。ただし、船の模写に関しては、額に入っていないものでも、今後、船絵馬との関連を見出すことを考え、他の絵馬とは分類を分けて記録することにした。
例：寿-9-模1

- 本稿では、原則として、旧字体を新字体に改めた。

<馬図>



寿-4-1



寿-6-1



寿-6-2



寿-6-3



寿-6-5



寿-6-6

本稿に掲載した図版の、実際の寸法に対する拡大率はそれぞれ異なる。

<神仏図>



寿-2-1

<動物図>



寿-3-3

<武者図>



寿-1-3



寿-4-2



寿-6-15



寿-6-17



寿-6-20

<風景図>

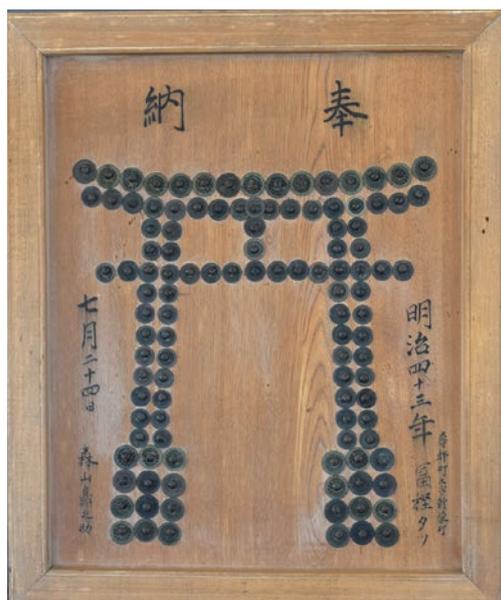


寿-6-33



寿-9-2

<祭礼・祭具図>



寿-1-6



寿-9-3



寿-1-7

<船>



寿-1-10



寿-1-12



寿-1-11



寿-6-47



寿-6-48



寿-9-模



寿-9-模1(台座の部分)

Votive Pictures in Suttsu Town, Hokkaido

TANAKA Yumi

In October 2019, we carried out site studies of eight shrines and one cultural facility to verify locations of *ema* (votive pictures offered to facilities such as shrines or temples) extant in Suttsu Town, Hokkaido. During the study, we recorded details of all votive pictures confirmed at each site.

Key findings are:

- (1) There was a total of 140 votive pictures. All information readable from the votive pictures has been summarized in charts. Future closer examination based on these findings is necessary.
- (2) In Suttsu Town, there are many *funaema* — votive pictures of ships. These *funaema* exhibit various styles, such as two-dimensional, semi-stereo, and three-dimensional.

Semi-stereo votive pictures have also been found in other areas of Hokkaido, such as Yoichi Town and Iwanai Town.

- (3) Compared with findings of similar studies presented in 1993, on some of the votive pictures, graphic elements and text have become illegible; certain votive pictures cannot be located at all. We plan to digitize the photographic film used during the previous study, which is kept at Hokkaido Museum.

In future, we plan to expand the scope to include surrounding regions of Suttsu Town. A long-term goal is to create a database of votive pictures for all regions of Hokkaido.